

# 宗谷

## 宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.16 平成29年11月29日発行  
発行責任者:古川 正史

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館  
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484  
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org

メールは  
こちら



# 学校づくりと人事の取り組み 管内人事異動の動向

## 管内課題を受け止める議論を

宗谷教職員組合では、学校づくりと人事の取り組みとして、人事動向を独自に分析し、来年春からの学校づくりが豊かなものになるよう毎年この時期に提言を行っています。宗谷教組の組織力量から確かなものとは言えませんが、管内的な傾向はつかむことができるものです。管内課題を意識した論議が求められます。

## 管内課題を 私たち自身の問題として考えよう

宗谷教職員組合として、学校づくりと人事について取り扱う最大の理由は「管内の各学校の教職員配置という教育条件の充実」と「組合員の先生方の教育要求・生活要求に寄り添うこと」を一体的に考えていくためです。この数年では、現人事異動要領のもとでの「エリ

ア間移動」が定着してしまいが、異動希望者・異動対象者の異動希望のバランスによつて毎年、管内課題が生まれます。よく、「理解と納得」の話をすると、『宗谷教組に加入しているからといって、他の誰かのことを考えて希望を変更するのはおかしい』

### 【今年の管内課題について】

#### 定数減について

▶ 昨年に引き続き、加配教員の配置に不安要素があります。指導方法工夫改善加配の減少が心配です。

#### 利礼エリアへの入り

▶ 利尻島の小学校で転出希望と転入希望のバランスが良くなく、経験者不足が懸念されます。  
▶ 中学校は利尻島・礼文島ともに、教科構成上の困難が予想されます。

#### 職種ごとの異動動向状況

▶ 中学校では、教科バランスから異動の困難性が生まれることが予想されます。

#### 今年度で閉校する学校

▶ 閉校する学校はありません。利尻富士町で利尻小学校と鬼脇中学校が「併置校」になります。

## 1月9日~12日 「飛び出せ！道外!!」開催

昨年12月、全教が主催する「未来ひらくプロジェクト『ゆいま〜る』」が開催され、宗谷からはご家族を含めて9名が参加しました。沖縄はオスプレイの配備、辺野古新基地建設反対の運動、市民の共闘の取り組みなど、私たちが暮らしている宗谷とは大きく違う土地です。地元の方に歴史や現状をガイドしてもらいながら、実際に見ることは「子どもたちに平和な未来を」と願う私たち教職員にとって有意義な経験になりました。

### 冬休み、沖縄で学ぼう！

こうした、昨年の「ゆいま〜る」の教訓を受けて、6年ぶりに宗谷教組の名物企画「飛び出せ！道外!!」を復活させることにしました。元来は青年教師向けの企画でしたが、今回は「たくさんの先生方と平和について学びたい」と言う願いから、たくさんの先生方の参加をお待ちしています。十一月二十九日現在、三名の参加者が集っています。あなたも一緒に、沖縄で学びましょう。

**日程** 1月9日(火)~12日(金)の3泊4日  
**参加費** 55,000円(新千歳発着、ホテル・飛行機・レンタカーを含む)  
**日程**

1/9(Tue)	新千歳空港集合 ANA56便 10:30発→羽田乗継→那覇空港15:55着	那覇市内で 沖縄グルメ!
1/10(Wed)	現地の組合の先生に案内をしていただきます。 主な見学地(予定): キャンプシュワブゲート→嘉数高台→県立平和記念資料館	
1/11(Thu)	沖縄の文化を満喫しよう! 主な見学地(予定): 美ら海水族館→国際通り	
1/12(Fri)	那覇空港 ANA464便12:15発→羽田乗継→新千歳空港17:30着	

◆同封のカラーチラシをごらんください。

という言葉が聞けることがあると思います。果たして、そうでしょうか。管内課題があるということは、「来年の人事で『宗谷の仲間(組合加入問わず)が誰も来ないかも。来年のうちの学校はどうなるんだ!?'と来年の展望が持てず困っている学校」があつて、そこには私たちと同じ宗谷の先生方がいるということなんです。だからこそ、管内中の学校が新年度の展望を持てるよう、宗谷教組として「学校づくりと人事」を考えます。

## ゆいま〜る 参加者記録集より(抜粋)

**参加した先生の感想から**  
フィールドワークでは、バスの中で現地ガイドの方から景色だけでなくそこにある歴史と現実を聞かせてもらいました。嘉数高台から見る普天間飛行場、テレビでは感じることのできない民家との距離。高速道路のすぐ横にある米軍の居住地。家賃も光熱費も日本国民の税金のため、国に帰省する時はカビをはやさないためエアコンをつけっぱなしで返るとか、そうしたことを見て聞いて、この国の防衛のことも平和のことをよくやく知ることができました。

**参加したお子さん(小6)の感想から**  
私は世界一危ないという「普天間基地」を見てきました。オスプレイが22機ありました。ヘリが墜落したことも教えていただきました。また、バスの中ではガイドさんが「高速道路をつくるにあたっての困ったこと3つ」を話してくれました。ひとつは八つが出たこと、もうひとつは不発弾が出たこと、そしてさいごは、亡くなった人の骨が出たことだそうです。これらのことを学んでやはり戦争はしてはいけないと再確認することができました。

- ◆10日の見学地は検討中の段階です。10日と11日の日程が入れ替わる可能性があります。
- ◆途中の東京合流、沖縄合流も可能です(参加費が変わります)。
- ◆現地の案内は、沖縄県教職員組合那覇支部の先生にお世話になる予定です。
- ◆本部から古川・山本が参加します。
- ◆最終申込締め切りは12月22日とします。

# 冬休み、沖縄で平和を学ぼう!

# あなたを守り、組合運動をたくましくする 全教共済に入ろう！

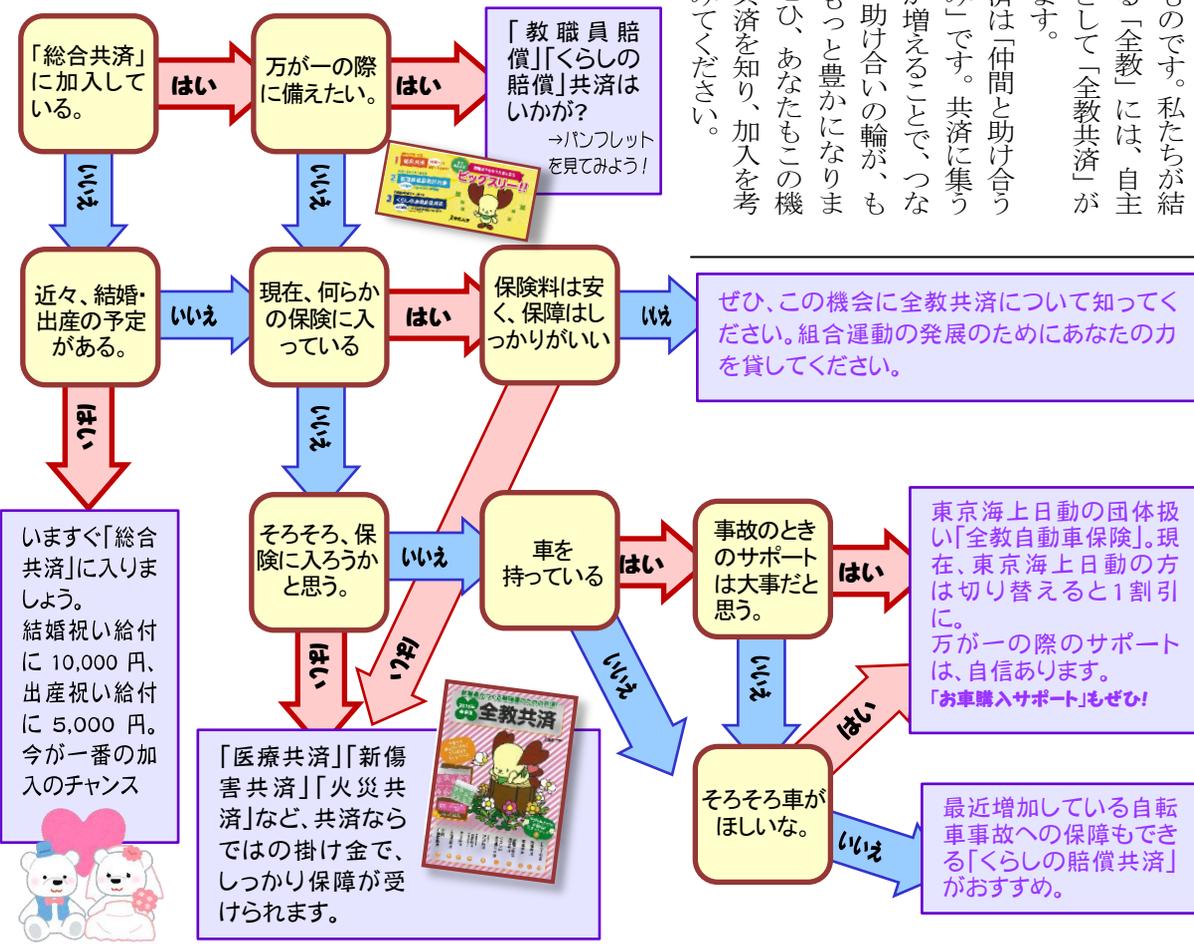
## 保険と共済のちがいは

私たち教職員の生活は、実に様々な保険や共済とお付き合いをしています。

その中に、「共済」があります。加入者が相互に助け合うものです。私たちが結集する「全教」には、自主共済として「全教共済」があります。

共済は「仲間と助け合う仕組み」です。共済に集う仲間が増えることで、つながり・助け合いの輪が、もつともっと豊かになります。ぜひ、あなたもこの機会に共済を知り、加入を考えてみてください。

## あなたに、おすすめの共済はこちら！



## 加入者の声

### 総合共済

月々600円の掛け金で、慶事給付・お見舞給付があるだけでなく、退職時には

掛け金全額が戻ります。何気なく、分会会議のときに「入ったらいいかも」と思い、総合共済に加入しました。月日が経って、結婚する

ぜひ、この機会に全教共済について知ってください。組合運動の発展のためにあなたの力を貸してください。

東京海上日動の団体扱い「全教自動車保険」。現在、東京海上日動の方は切り替えると1割引に。万が一の際のサポートは、自信あります。「お車購入サポート」もぜひ！

最近増加している自転車事故への保障もできる「くらしの賠償共済」がおすすめ。

共済は、教員なら組合加入の有無を問わず加入できます。ぜひ、あなたのまわりで、そして何よりあなたの暮らしを少しだけほっこりさせることを願って、加入の検討を。不明な点は宗谷教組本部あるいは道教組共済会まで。丁寧に解説します！

冬に、スリップして車を路外に落としてしまいました。レッカーでの引き上げや、修理の間のレンタカーのコトで不安がいっぱい。そんな中、川上企画の担当者の方に連絡をする。先主、保険で大丈夫です！安心して下さい!! の声。親身に対応してもらえ、全教自動車保険のありがたみを感じました。

全教自動車保険は、全教共済独自の「被害者救済・加入者保護」を最大の特徴にしています。

ことになり、立て続けに子どもを授かりました。総合共済の案内を見ると、簡単な手続きで「お祝い給付」があるというので、書類を整えて申請しました。すぐに口座に入金されて、ちょっとうれしくなりました。結婚も出産も何かと出費がかさみます。そんなときに、組合の共済からも給付がもらえるのは、「組合にも共済にも入ってよかった」と思える瞬間でした。

## 言の葉 editorial note

◆人事の課題、教育課程づくり、そしてさらには沖縄での平和学習から全教共済と、今回の宗谷情報は話題豊富です。よく「組合っていろいろやりすぎ」って言葉をいただきます。やっていることを細分化していくと、確かに多岐にわたります。ただ、その根幹はどれも同じ。「子どもたちの未来のため、今を生きる子どもたちに何を伝えあげられるか」ということだと思えます。◆昔、一緒に働いた校長先生が具体的な動きの見通しが持てなくなったときに「本質は何か。方向性はどうか」という示唆をくれました。◆私たちの教職員組合運動の「本質」は、子どもたちを真ん中にして教育を語ること…ですよね。忙しい中でも、こうした教育条理を大切にしたいです。(naity)

よく教科の指導計画を作る際に、教科書会社が用意したワードやエクセル

ルの書式をものに、時数をいじったり…ということがある。年一度の教育課程づくりでは、子どもたちの姿から学校づくりの根幹まで、より広い現状把握と今後のビジョンを持ち合う取り組みになるということ。学校として議論を進める工夫を

教育活動の計画とは、「目標・計画・実践・評価・改善」の観点で作成する。つまり、児童生徒に「どんな力をつけるために」、「どんな方法・手段を用い」、「どのくらいの時間をかけて行うべきか」、「どう評価し、改善していくか」を具体化した「教育活動の設計図」である。

日々の学校運営の傍らでこうした議論を進めることが「忙しい毎日の中で苦しい」と言う声を聞きます。確かにそうかもしれませんが、しかし、「人材の育成」をねらいとする新指導要領のもとで、民主的學校づくりを進めるためには、先に紹介した「教育課程づくり」の原則に沿って議論をすることが一番の近道といえるでしょう。(つづき)

次回具体的な取り組みを紹介します！

シリーズ  
新学習指導要領で  
子どもと学校は?  
⑧ 全教職員で  
「教育課程づくり」を進める(1)